

1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成

委員は 家庭代表・地域代表・学校代表で構成。(計11名)…③④⑥ 地域コーディネーター
家庭(2) - ①保護者の父親代表1名
②保護者の母親代表1名
地域(6) - ③まちづくり協議会長1名
④学校ボランティア代表1名
⑤地区自治会長1名
⑥コミュニティセンター長1名
⑦交通安全協会分会長1名
⑧民生・児童委員1名
学校(3) - ⑨校長 ⑩教頭 ⑪教務主任

(2) 協議会の内容

第1回 6月14日(金) 17:30~
・委員の委嘱
・本年度の教育方針、現状についての説明
第2回 11月30日(土) 10:15~
・現在までの教育活動の取組について
・本年度の学校評価について
・今後の予定
第3回 2月28日(金) 11:50~
・令和元年度の反省(学校評価)について
・6年生を送る会、給食試食会

(3) 協議会における成果と課題

学校開放日に協議会を設定して、児童の活動の様子を実際に見ていただき、学校関係者評価に繋げていただいた。PTA代表の方等には、仕事を休んでいただく必要があったため、負担をおかけすることになった。地域と進める体験活動について、次年度はまとめの年でもあるので、協議会でご意見をいただきながら計画的に進めていきたい。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

地域での体験活動を通して、児童が自ら考え工夫しながら実践を積むことにより、自分たちが住む町やふるさと福井に誇りや愛着をもち、未来に向かって力強く歩いていこうとする意欲を育てる。また、地域のコーディネーターやボランティアの方々の協力を得ながら、人と人とのつながりの大切さを通し、温かい人間関係を築くことを実感し、ふるさと愛を育てていく。

(2) 活動の実際

①農業体験(5年生)

本校の所在地は、自然環境に大変恵まれた坂井平野の稲作地域である。ふるさと教育の一環として、「総合的な学習の時間」に稲作体験活動を行う環境には恵まれている。しかし、近年、新興住宅地の児童数が約6割を越え、元来の純農村部の児童数を上回る情勢の中、各家庭での児童の米作り体験は総じて少なく、意外に関わり感も希薄である。

社会科での米作りの学習を「実際に自分達で体験しよう!」という児童の思いを元に、5月には初めて感じる泥の感触に歓声を上げながら、コシヒカリと餅米の苗を植えた。9月、たくさんのボランティアの方々のお陰で、無事に収穫に辿り着くことができた。11月、地区の農家



(様式3)

の方や保護者の方の協力を得てもちつきができた。地域の祖父母の方が、懇切丁寧にもちつきやもちの丸め方等を教えてくださり、昔とった杵柄を披露してくださった。

②ゆりの学習（3年生）

坂井市では「ゆり」が市の花とされている。また、本校では普段から縦割り班の活動等で近くの「ゆりの里公園」を活用したり、「まちづくり協議会」の方々にボランティアに来ていただいたりしている。

今年も、3年生が坂井市の学習の一環として、市の花である「ゆり」の育て方を体験しよう！というコンセプトで、「ゆりの里公園」職員や「まちづくり協議会」の方々に来ていただき、「ゆりの学習」を実施した。児童各自が一鉢植えた後に、みんなで協力してプランターにも植えた。プランターは学校で育て、持って帰る鉢は家庭で育てることにした。児童は「来年の6月ごろに咲くのが楽しみ！」と口々に話していた。



(3) 地域コーディネーターの活動概要

- ・ 農業体験では、JAはるえとの調整役として協力いただいた。
- ・ 3年「ゆりの学習会」では、花苗の手配やゆりの里の方々の連絡調整などをして、指導をいただいた。

(4) 特に工夫した事項

- ・ 農業体験では、JAはるえとの調整役として協力いただいた。
- ・ 3年「ゆりの学習会」では、花苗の手配やゆりの里の方々の連絡調整などをしていただいた。

(5) 成果と課題

- ・ 【農業体験】児童が主体的に米作りを体験することで、地域の米作りに対する工夫や努力、苦労などを学ぶことができた。また「食」に対する心構えや、伝統的な食文化についても学ぶことができた。今後も、地域の方々の協力を得ながら、児童の米作り体験をさせたい。
- ・ 【ゆりの学習会】天候にも恵まれ、室内と屋外での活動がバランスよくできた。来年もさらに児童の主体性が発揮されるように、事前指導と打合せをしっかりと行っていきたい。